

特集

9月1日は  
防災の日

## 熊本地震派遣職員リポート

# そのとき、自分や家族を守ることができずか

### 悲惨な被災地の状況

4月に熊本地方を襲った地震から4か月。

市では、熊本地震の被災地支援として、市職員4人を熊本県益城町へ派遣しました。

この4人の派遣職員から、活動内容や被災地の状況を報告します。

問 市防災危機管理課(近江庁舎)

☎ 52-6630    ☎ 52-6930  
FAX 52-6930



▲熊本県益城町への派遣職員 ※( )内は派遣期間  
左から 吉田 圭一主事(5月1日～5日)、堀 正彦主査・久保 裕之主事  
(6月17日～25日)、柴田 隼人主幹(7月12日～19日)

**吉田** 5月の活動中には、何度か大きな余震がありました。宅地の狭い所に入る作業もあり、2次災害の危険性もあったので、支援者も、安全を確保しながら活動することが必要だと感じました。

**久保** 私は地震発生から2か月後の派遣でしたが、町は地震直後のままでした。益城町役場は、住民の立ち入りが禁止され、駐車場に建設された仮設のプレハブ庁舎で執務が行われていました。

**柴田** 数か月間放置されていた被害家屋は、天井や壁、床などが雨漏りなどで腐食し、被害が拡大している状況でした。

耐候性に優れたブルーシートを配布するなど、被害の拡大を防止する手立ても必要なのではないかと思いました。

**堀**

被災した家屋などを公費で解体・撤去する制度には、12日間の受付期間に1800件もの申請が出されています。家屋などの解体や撤去がすべて完了するまでに2年かかると聞きました。



▲被災した家屋の全壊、半壊等の被害状況の判定を行う柴田主幹(7月19日・益城町)



▲余震が続く中、益城町で被災宅地の危険度判定活動を行う吉田主事



▲堀主査と久保主事が受付業務を行った、益城町文化会館。この建物も被災して天井が落ちているため、受付場所は安全なロビー。



▲伊吹山中学校の生徒から預かった色紙は、避難所のお世話をされている人へ渡しました。

## 復興へ向けて

堀

益城町の職員は、自らも被災している中で、休みなく被災者の支援をされていますが、情報が入らず、不安を抱えている人がたくさんいました。

柴田

そうですね。家屋被害の二次調査の申請をした人の多くは、正しい情報が行き渡らなかつたために二次調査の必要がないにもかかわらず、誤解して申請しておられました。

初期期はもちろん、復興期の段階でも防災無線やICT(情報通信技術)以外に、自治会や避難所の掲示板、口頭でのコミュニケーションなど、昔ながらの情報伝達手段を活用することで正しい情報を迅速に伝えることができると思います。

それには、行政と地域住民との連携や、地域内での顔の見える関係づくりが大切だと実感しました。

## 実感した災害時の備え

堀

避難所では、水や食料など生活に必要な物資は最低限度のものしかそろいません。また、持病を患う人やアレルギーのある人など、避難している一人ひとりの事情に合わせた物資を用意することは困難です。

自分の身体のことを理解しているのは、自分自身やその家族です。災害時に困らないように、非常持ち出し品を用意する時には、自分が生活するために必要なものを、最低3日分の水や食料とともに準備しておくことが大切だと思います。

## 「遠いところからありがとう」

柴田

「滋賀県米原市」の防災ベストを着用して活動していると「遠いところから支援に来ていただいたて、ありがとうございます」と、多くの方々から温かい声をかけていただきました。被災して本当に大変なのは、被災地のみならずなのにな…。

一日も早い復旧、復興を心より願っています。

派遣職員は「私たちの活動が少しでも被災者の助けになれてよかった」と被災地での活動を話してくれました。

市では、今回の被災地への職員派遣の経験を共有し、今後の災害発生時の備えになるよう取り組んでいきます。

## メールでしらせのしが安全・安心情報 しらせがメール

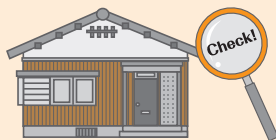
地震発生情報や避難情報などを、登録者へ電子メールで配信。利用登録は下記URL、QRコードから。  
<http://www.pref.shiga-info.jp>



問 県 情報政策課  
☎ 077-528-3381

## 家が「倒れない」ように 木造住宅の耐震診断

申込期限 11/30(水) **無料**  
詳しくは、広報まいばら 7月1日号をご確認ください。



問 市 都市計画課(近江庁舎)  
☎ 52-6926 FAX 52-8790

## 避難所を確認 米原市総合防災マップ

地震ハザードマップも掲載。避難所や避難方法などを、家族で話し合みましょう。



問 市 防災危機管理課(近江庁舎)  
☎ 52-6630 FAX 52-6930



# みんなの家EH 防災非常食「イザゼン」を熊本へ

災害時、必ず起こる「食料不足」。避難所での避難生活では、おかゆなどの水分が多い食品や、ホッと甘いものが欲しくなるそうです。

地域お茶の間創造事業に取り組む上板並の住民グループ「みんなの家EH」は、災害時に避難生活を送る人たちが笑顔で食べられるように、防災非常食スイーツ「イザゼン」を開発しました。

## いざ災害にあったときに食べる冷凍ぜんざい「イザゼン」

「イザゼン」は、避難所で食べることを想定して、パックに入った食べきりサイズになっています。

みんなの家EHのメンバーが1年以上かけて開発し、本格的な製造を始めた今春、熊本地震が発生。4月19日、フェイスブックのネットワークを活用して、熊本県益城町の避難所へ「イザゼン」200食を支援物資として送りました。

代表の伊賀並正信さんは「イザゼンをきっかけに、非常食や防災用品の確認をして、家族で防災について話し合う機会になれば」と話します。

冷たいままでも、温めてもOK！

農薬や化学肥料を使わず、地域の畑で育てた小豆を使用



冷凍だと1年半、冷蔵でも40日間保存可能

アレルギーの心配がなく、高齢者や子どもも安心！

## 自分たちの地域は自分たちで守る

上板並では、東日本大震災後、住民有志で地域自主防災隊「サンダーバード」を設立し、災害時に備えて自分たちの地域は自分たちで守れるよう、地域の防災力を高めてきました。

サンダーバードと福祉委員が中心となって空き家を改修したみんなの家EHの活動拠点には、非常食の備蓄もあり、災害時の避難所としても利用できます。

「出来ることから始め、住民が支え合い、安心して暮らせる地域にしたい」と伊賀並さんは話してくれました。

## 水源の里 熊本県阿蘇市に支援物資提供

4月25日、米原市と同じく「全国水源の里連絡協議会」に参加する阿蘇市へ、ブルーシートや土のう袋、割り箸、使い捨て食器などの支援物資を市職員が直接届けました。



(運搬者:市民部次長 的場 市樹、総務課長 宮川 巖)

## 熊本地震災害に対する義援金 平成29年3月31日まで受付中

温かいご支援  
ありがとうございます

7月31日時点での受付総額  
**2,511,158円**

### 義援金箱設置場所

市役所各庁舎窓口、  
くらし支援課(山東庁舎)、  
ルッチプラザ、近江図書館、  
市社会福祉協議会  
(ボランティアセンター三島荘、  
愛らんど、ゆめホール、  
やすらぎハウス)



▲米原市消防団から米原市社会福祉協議会へ義援金693,100円を贈呈(6月14日)

市 ぐらし支援課(山東庁舎)  
☎ 55-8110 ☎ 55-8130

## 非常食や持ち出すものを 準備しておきましょう

いざというときに慌てないように準備し、  
日頃から点検をしましょう

### 非常時持ち出し品

避難所までの距離や体力を考えて、  
持っていけるだけの量にしましょう。

- ラジオ・懐中電灯・携帯電話の充電等
- 水(500ミリリットル×6本程度)
- 救急用品・医薬品
- 衣類・タオル・裁縫セット・防寒具・オムツ等の衛生用品
- 貴重品(運転免許証や通帳等)
- 現金

### 非常時備蓄品

最低3日分の  
水と食料を  
準備しましょう

